

感染症発生動向調査情報に基づく埼玉県の患者発生状況

—2013年—

山田文也 尾関由姫恵 白石薫子 渡邊悦子 中村政彦 斎藤章暢 岸本剛

Infectious diseases surveillance reports in Saitama Pref. in 2013

Fumiya Yamada, Yukie Ozeki, Kaoruko Shiraishi, Etsuko Watanabe, Masahiko Nakamura, Akinobu Saito, Tsuyoshi Kishimoto

はじめに

感染症発生動向調査事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」の第12条から16条に基づく全国サーベイランスである。調査対象疾患は、一類から五類感染症、新感染症、指定感染症及び新型インフルエンザ等感染症の約100種類が感染症法で定められている。当所では、2004年4月から、「感染症発生動向調査実施要綱」に基づく埼玉県感染症情報センターとして、埼玉県における感染症の発生についての情報収集、解析及び提供を行っている。

2013年のサーベイランスでは、「重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスによるものに限る）Sever Fever with Thrombocytopenia Syndrome（SFTS）」が四類感染症に、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症及び侵襲性肺炎球菌感染症が五類感染症に追加された。また、定点把握対象疾患では、ロタウイルスによる感染性胃腸炎が基幹定点報告対象疾患に追加された。さらに、鳥インフルエンザ（H7N9）が指定感染症へ指定された。

新たに追加された疾患は、SFTSが3月4日から、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症及び侵襲性肺炎球菌感染症は4月1日から、鳥インフルエンザ（H7N9）が5月6日からそれぞれ届出対象となった。これに伴い、4月1日から全数報告対象疾患の髄膜炎菌性髄膜炎と基幹定点把握対象疾患の細菌性髄膜炎からインフルエンザ菌、髄膜炎菌及び肺炎球菌を原因とした場合が除かれた。

本報告では、全数把握対象疾患及び定点把握対象疾患として報告されたものを集計対象とし、埼玉県基幹情報センターとして収集した、さいたま市及び川越市を含む全県域の届出をまとめた。

対象及び方法

届出対象疾患を表1-1, 2に示す。対象疾患の集計は、NESIDシステム内の感染症発生動向調査システムの数値を用いた。

集計は、全数把握対象疾患と月単位報告の定点把握対象疾患は診断日が2013年1月1日から12月31日まで、週単位報告の定点把握対象疾患については、2012年12月31日（第1週）

から2013年12月29日（第52週）までの報告を集計対象とした。

結果

1. 全数把握対象疾患の発生状況

一類から三類感染症の患者届出数を表2-1に、四類感染症を表2-2に、五類全数把握対象疾患を表2-3にそれぞれ示した。

(1) 一類から三類感染症

一類感染症は、疑似症を含め届出はなかった。二類感染症は、結核1,313例の届出があり、前年の1,409例より減少した。結核の病型別では、患者944例、無症状病原体保有者（潜在性結核感染症）357例、感染症死亡者の死体1例のほか、疑似症が11例であった。患者は届出の71.9%を占め、前年の70.5%と比べ1.4ポイント増加した。

三類感染症は、細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症191例、腸チフス5例、パラチフス1例の届出があり、腸管出血性大腸菌感染症の届出数が前年を大きく上回った。また、前年に引き続きコレラの届出はなかった。

1) 細菌性赤痢

細菌性赤痢は、男50歳代と30歳代が各1例、女50歳代と20歳代が各1例の計4例の届出があった。届出は2月に男2例、3月と4月に各1例で、病型別では、患者3例、無症状病原体保有者1例であった。診断方法は、いずれも分離同定による病原体の検出、血清型は*Shigella sonnei*であった。また、推定感染地域はいずれも海外であった。

2) 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、男79例、女112例の計191例の届出があった。年齢階級別では、10歳未満から90歳以上に分布し、10歳未満が65例と最も多く、届出の34.0%を占めた。届出は1月から3月を除く各月にあり、8月の67例が最も多く、次いで7月の46例、9月の20例の順で、この3カ月間で届出の69.6%を占めた。病型別では、患者129例で、そのうちHUS患者は2例で7月と12月に各1例が届出られた。無症状病原体保有者は62例で、届出の32.5%を占めた。

血清型別では、血清型O157が119例と最も多く、届出の62.3%を占め前年より0.8ポイント増加した。

表1-1 感染症法における届出対象疾患

感染症類型	疾患名	届出の可否			届出方法		
		患者	(*) 疑似症	無症状病原 体保有者	定点種 別	時期	内容 (**)
一類	エボラ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	クリミア・コンゴ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	痘そう	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	南米出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ペスト	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	マールブルグ病	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ラッサ熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
二類	急性灰白髄炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	結核	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ジフテリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	重症急性呼吸器症候群(病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H5N1)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
三類	コレラ	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	細菌性赤痢	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腸管出血性大腸菌感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腸チフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	パラチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
四類	E型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	A型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	エキノкокクス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	黄熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	オウム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	オムスク出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	回帰熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	キャサナル森林病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	Q熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	狂犬病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	コクシジオイデス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	サル痘	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	重症熱性血小板減少症候群	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腎症候性出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	西部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ダニ媒介性脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	炭疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	チクングニア熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	つつが虫病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	デング熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	東部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ニパウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	日本紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	日本脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ハンタウイルス肺症候群	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	Bウイルス病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ブルセラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ベネズエラウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ヘンドラウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	発しんチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ポツリヌス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	マラリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	野兔病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ライム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	リッサウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	リフトバレー熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	類鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
レジオネラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
レプトスピラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
ロッキー山紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	
指定感染症	鳥インフルエンザ(H7N9)	○	○	○	** * d	直ちに	a

* 疑似症 : 疑似症とは、明らかに当該感染症の症状を有しているが、病原体診断の結果が未定の者を指す。

**内容 : a : 氏名、年齢、性別、職業、住所所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、その他(保護者の住所氏名)

b : 年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域

c1 : 年齢、性別 c2 : 年齢、性別、原因病原体の名称、検査方法

*** : 集団的な発生が疑われる場合のみ届出

d : 患者の属する施設の名称及び所在地、患者から聴取した疫学情報

表1-2 感染症法における届出対象疾患(五類感染症)

感染症類型	疾患名	届出の可否			届出方法		
		患者	(*) 疑似症	無症状病原 体保有者	定点種別	時期	内容 (**)
五 類	アメーバ赤痢	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	RSウイルス感染症	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	咽頭結膜熱	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	感染性胃腸炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)★	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	急性出血性結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラ馬脳炎及びリストバレー熱を除く)	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	クリプトスポリジウム症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	後天性免疫不全症候群	○	×	○	(全数)	7日以内	b
	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症★	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	侵襲性肺炎球菌感染症★	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	侵襲性髄膜炎菌感染症★	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	ジアルジア症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	水痘	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	髄膜炎菌性髄膜炎★	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	性器クラミジア感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	性器ヘルペスウイルス感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	尖圭コンジローマ	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	先天性風しん症候群	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	手足口病	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	伝染性紅斑	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	突発性発しん	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	梅毒	○	×	○	(全数)	7日以内	b
	破傷風	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	百日咳	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	風しん	○	×	×	(全数)	7日以内	b
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2
	ヘルパンギーナ	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
マイコプラズマ肺炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	
麻しん	○	×	×	(全数)	7日以内	b	
無菌性髄膜炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	
薬剤耐性緑膿菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	
流行性角結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1	
流行性耳下腺炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	
淋菌感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	

*疑似症：疑似症とは、明らかに当該感染症の症状を有しているが、病原体診断の結果が未定の者を指す。
 **内容： a：氏名、年齢、性別、職業、住所、所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域
 その他(保護者の住所氏名)
 b：年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域
 c1：年齢、性別 c2：年齢、性別、原因病原体の名称、検査方法
 ★髄膜炎菌性髄膜炎は3月31日まで届出対象、
 侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症及び侵襲性インフルエンザ菌感染症は4月1日からの届出対象
 ★★10月14日(第42週)から届出対象

その他の血清型では、026が56例、0121が5例、0145と0111が各3例のほか、0103、098、055、08及び血清型不定が各1例であった。

3) 腸チフス・パラチフス

腸チフスは、男1例、女4例の計5例の届出があり、前年の1例より増加した。年齢階級別では、男が70歳代、女は、30歳代、20歳代、10歳代、10歳未満が各1例であった。届出は、

6月と9月に各2例, 8月に1例で病型はいずれも患者であった。
 診断方法はいずれも分離同定による病原体の検出で, 検体別では, 血液が3例, 便が2例であった。推定感染地域は, 国内4例, 海外1例であった。

歳代, 60歳代, 50歳代が各1例, 女は70歳代と40歳代であった。届出は, 7月と12月が各2例, 3月, 6月, 10月に各1例で, 病型はすべて患者, 診断方法は血清IgA抗体の検出であった。推定感染経路は, 経口感染が5例, 不明2例, 推定感染地域は, 国内6例, 海外1例であった。

表2-1 一類、二類、三類感染症の届出数

	疾患名	埼玉県		
		2013年	2012年	2011年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	1313	1409	1577
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0
	細菌性赤痢	4	12	7
	腸管出血性大腸菌感染症	191	130	146
	腸チフス	5	1	1
	パラチフス	1	1	0

パラチフスは, 3月に30歳代男1例の届出があった。病型は患者で診断方法は分離同定による病原体の検出, 推定感染地域は海外であった。

(2) 四類感染症

四類感染症は, E型肝炎7例, A型肝炎4例, デング熱7例, マラリア1例, 類鼻疽1例, レジオネラ症42例の計62例の届出があり, E型肝炎, A型肝炎及びデング熱は前年の届出を上回った。

1) E型肝炎

E型肝炎は, 男5例, 女2例の計7例の届出があり, 前年より増加した。年齢階級別では, 男が30歳代2例のほか, 70

2) A型肝炎

A型肝炎は, 男3例, 女1例の計4例の届出があった。年齢階級別では, 男が60歳代2例, 40歳代1例, 女は40歳代であった。届出は, 3月, 9月, 10月, 12月に各1例で, 病型はすべて患者, 診断方法は血清IgM抗体の検出であった。感染経路はすべて経口感染, 推定感染地域は, 国内1例, 海外3例であった。

3) デング熱

デング熱は, 男3例, 女4例の計7例の届出があった。年齢階級別では, 男が30歳代2例, 10歳代1例, 女は50歳代, 30歳代, 20歳代, 10歳未満が各1例であった。届出は11月に3例, 7月, 9月, 10月, 12月に各1例であった。病型は, デング熱6例, 無症状病原体保有者1例でデング出血熱の届出はなかった。診断方法は, PCR法による病原体遺伝子の検出が3例, 血清IgM抗体の検出が2例, 血清での非構造タンパク抗原(NS1)の検出が1例, IgM抗体の検出及びNS1の検出が1例であった。推定感染地域は, すべて海外であった。

4) マラリア

マラリアは, 6月に10歳未満女1例の届出があった。病型は三日熱マラリアで, 診断方法は血液検体の鏡検による病原体の検出であった。推定感染地域ではすべて海外であった。

5) 類鼻疽

類鼻疽は, 10月に70歳代男1例の届出があった。診断方法

表2-2 四類感染症の届出数

	疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
		2013年	2012年	2011年		2013年	2012年	2011年
四類	E型肝炎	7	0	1	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)	0	0	0
	ウエストナイル熱	0	0	0	ニパウイルス感染症	0	0	0
	A型肝炎	4	3	5	日本紅斑熱	0	0	0
	エキノコックス症	0	0	1	日本脳炎	0	0	0
	黄熱	0	0	0	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
	オウム病	0	0	0	Bウイルス病	0	0	0
	オムスク出血熱	0	0	0	鼻疽	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	ブルセラ症	0	0	0
	キャサヌル森林病	0	0	0	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0
	Q熱	0	0	0	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	糞しんちフス	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	ポツリヌス症	0	0	0
	サル痘	0	0	0	マラリア	1	9	1
	腎症候性出血熱	0	0	0	野兔病	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	ライム病	0	0	0
	ダニ媒介性脳炎	0	0	0	リッサウイルス感染症	0	0	0
	炭疽	0	0	0	リフトバレー熱	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	類鼻疽	1	0	0
	つつが虫病	0	2	1	レジオネラ症	42	57	38
	デング熱	7	5	4	レプトスピラ症	0	1	0
	東部ウマ脳炎	0	0	0	ロッキー山紅斑熱	0	0	0

は、分離同定による病原体の検出(検体血液)及びPCR法による病原体遺伝子の検出(検体尿)で、推定感染地域は海外であった。

6) レジオネラ症

レジオネラ症は、男38例、女4例の計42例の届出があった。年齢階級別では、40歳代から90歳以上に分布し、60歳代が14例と最も多い。病型別では、肺炎型40例、無症状病原体保有者2例で、ポンティアック熱型の届出はなかった。診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が41例、分離同定による病原体の検出が1例であった。推定感染地域は、国内が38例、不明が4例であった。

(3) 五類感染症

五類感染症の全数把握対象疾患は、アメーバ赤痢39例、ウイルス性肝炎6例、急性脳炎33例、クロイツフェルト・ヤコブ病10例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症6例、後天性免疫不全症候群43例、ジアルジア症2例、侵襲性インフルエンザ菌2例、侵襲性髄膜炎菌性髄膜炎1例、侵襲性肺炎球菌感染症44例、先天性風しん症候群3例、梅毒38例、破傷風4例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症8例、風しん608例、麻しん27例の計874例であった。

表 2-3 五類感染症の届出数(全数把握)

	疾患名	埼玉県		
		2013年	2012年	2011年
五類	アメーバ赤痢	39	45	34
	ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	6	9	9
	急性脳炎	33	18	17
	クリプトスポリジウム症	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	10	7	8
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6	8	6
	後天性免疫不全症候群	43	42	43
	ジアルジア症	2	3	5
	侵襲性インフルエンザ菌感染症★	2	-	-
	侵襲性髄膜炎菌感染症★	1	-	-
	侵襲性肺炎球菌感染症★	44	-	-
	先天性風しん症候群	3	1	0
	梅毒	38	31	19
	破傷風	4	5	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	8	7	1
	風しん	608	97	7
	麻しん	27	30	29
髄膜炎菌性髄膜炎★	0	1	1	

★髄膜炎菌性髄膜炎は3月31日まで届出対象、
侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症および侵襲性インフルエンザ菌感染症は4月1日
から届出の対象

1) アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は、男33例、女6例の計39例の届出があった。年齢階級別では、男では30歳代が8例と最も多く、次いで50歳代と60歳代の各7例、40歳代が6例、70歳代と20歳代の各2例、80歳代が1例であった。女は、40歳代2例のほか、60歳代、50歳代、30歳代、20歳代が各1例であった。届出は、年間を通してあり、11月を除く各月に複数の届出があった。病型別では、腸管アメーバ症が31例、腸管外アメーバ症が5例、腸管及び腸管外アメーバ症が3例であった。診断方法は、腸管アメーバ症で鏡検による病原体の検出25例、血清抗体

の検出6例で、そのうち2例では鏡検による病原体の検出と血清抗体の検出の2法が実施されていた。また、腸管外アメーバ症は5例のすべてが血清抗体の検出、腸管及び腸管外アメーバ症の3例はいずれも2法により診断されていた。推定感染経路は、経口感染が10例、性的接触が11例、経口又は性的接触1例、その他3例、不明14例、推定感染地域は国内が27例、海外が4例、不明が8例であった。

2) ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)

ウイルス性肝炎は、男2例、女4例の計6例の届出があった。年齢階級別では、男が40歳代2例、女は80歳代、40歳代、30歳代、20歳代が各1例であった。届出は9月に2例のほか、2月、5月、6月、11月に各1例であった。病型別では、B型肝炎が5例、C型肝炎は80歳代女1例であった。診断方法は、B型肝炎では全例が血清IgM抗体の検出、C型肝炎は、HCV抗体の陽転、ウイルスRNA検出及びHCVコア抗原の検出であった。推定感染経路は、B型肝炎で異性間性的接触が2例、性的接触(異性同性不明)が2例、不明が1例、C型肝炎は不明1例であった。推定感染地域は全例が国内であった。

3) 急性脳炎

急性脳炎は、男19例、女14例の計33例の届出があり、前年の18例より大きく増加した。年齢階級別では、10歳未満が男11例、女9例と最も多く、そのうち1歳未満は男2例であった。その他の年齢階級では、男が40歳代3例、80歳代、70歳代、60歳代、20歳代、10歳代が各1例、女が、70歳代が2例、50歳代、40歳代、10歳代が各1例であった。届出は12月をのぞく各月にあり、2月が1例でその他の各月は複数の届出があった。検出された病原体は、インフルエンザウイルスとヘルペスウイルスが各6例、ロタウイルス3例、コクサッキーウイルス2例のほか、アデノウイルス、ノロウイルス、ムンプスウイルス、風しんウイルスが各1例、細菌感染症ではセラチアが1例で、病原体不明が11例であった。推定感染地域は、国内が32例、海外が1例であった。

4) クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)

CJDは、男7例、女3例の計10例の届出があった。年齢階級別では、男50歳代3例、80歳代、70歳代、60歳代、40歳代が各1例、女が90歳以上、80歳代、70歳代が各1例であった。届出は5月に3例、7月と10月に各2例、1月、6月、9月に各1例であった。病型別では、古典型CJDが8例、ゲルストマン・シャインガー病が50歳代男1例、医原性CJDが40歳代男1例で、変異型CJDの届出はなかった。診断の確実度は、ほぼ確実(脳波に周期性同期性放電(PSD)を認める)9例、疑いが1例であった。

5) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、男4例、女2例の計6例の届出があった。年齢階級別では、男が70歳代、60歳代、50歳代、40歳代各1例、女が80歳代、50歳代各1例であった。

届出は7月に2例、4月、5月、6月、10月に各1例であった。診断方法は、全例が分離同定による病原体の検出で、血清群は、A群、B群及びUG群が各2例であった。推定される感染経路は、創傷が4例、飛沫が1例、その他が1例、推定感染地域は、全例が国内であった。

6) 後天性免疫不全症候群(AIDS)

AIDSは、男39例、女4例の計43例の届出があった。年齢階級別では、男が10歳代から70歳代に分布し、20歳代の10例が最も多い。女は30歳代2例、20歳代と40歳代が各1例であった。病型別では、無症状病原体保有者25例、AIDS患者(AIDS指標疾患発症者)11例、その他(AIDS指標疾患以外の発症者)7例であった。推定される感染経路は、異性間性的接触が12例、同性間性的接触が20例、異性・同性間性的接触が4例、異性同性不明が2例であった。性的接触以外の感染経路は、刺青が2例、不明が2例であった。推定感染地域は、国内が31例、海外が7例、不明が5例であった。

7) ジアルジア症

ジアルジア症は、1月に50歳代男1例、11月に30歳代男1例の計2例の届出があった。診断方法は、いずれも鏡検による病原体の検出で、1月の届出は、アメーバ赤痢との同時検出であった。推定感染経路は、同性間性的接触が1例、不明が1例で、推定感染経路はいずれも国内であった。

8) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

4月1日から届出対象となった侵襲性インフルエンザ菌感染症は、7月と10月に80歳代男2例の届出があった。診断方法は、いずれも分離同定による病原体の検出で、推定感染地域は国内であった。予防接種歴は、なしが1例、不明が1例であった。

9) 侵襲性髄膜炎菌感染症

4月1日から届出対象となった侵襲性髄膜炎菌感染症は、5月に30歳代男1例の届出があった。診断方法は、分離同定による病原体の検出で、血清群はY群、推定感染地域は国内であった。また、3月31日までに髄膜炎菌性髄膜炎の届出はなかった。

10) 侵襲性肺炎球菌感染症

4月1日から届出対象となった侵襲性肺炎球菌感染症は、男28例、女16例の計44例の届出があった。診断方法は、全例が分離同定による病原体の検出で、その他イムノクロマトによる病原体抗原の検出が3例で、PCR法による病原体遺伝子の検出が4例で併用されていた。予防接種歴は、有りが6例、なしが19例、不明19例で、推定感染地域は全例が国内であった。

11) 先天性風しん症候群(CRS)

CRSは、男2例、女1例の計3例の届出があった。届出は9

月、10月、12月に各1例で、診断方法はいずれも血清IgM抗体の検出であった。病型別では、CRS典型例2例、その他1例で、母親の妊娠中の風しん罹患は、6週と7週が各1例、不明が1例であった。

12) 梅毒

梅毒は、男31例、女7例の計38例の届出があった。年齢階級別では、男が10歳代から60歳代に分布し、20歳代の13例が最も多い。女は、20歳代4例、40歳代、30歳代、10歳代が各1例であった。病型別では、無症状病原体保有者10例、早期顕症梅毒Ⅰ期9例、Ⅱ期15例、晩期顕症梅毒4例であった。推定される感染経路は、異性間性的接触が男13例、女5例、同性間性的接触が男12例、異性同性不明が男3例、女2例、不明が3例であった。推定感染地域は、国内が37例、海外が1例であった。

13) 破傷風

破傷風は、男3例、女1例の計4例の届出があった。年齢階級別では、男が50歳代、60歳代、70歳代が各1例、女は80歳代であった。届出は、6月から8月に各1例のほか10月に1例であった。診断方法は、いずれも臨床決定で、創傷部位は下肢2例、下肢又は上腕が1例、不明が1例であった。推定感染地域は全例国内であった。

14) バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症

VRE感染症は、男4例、女4例の計8例の届出があった。年齢階級別では、男が80歳代と60歳代が各2例、女が80歳代3例、70歳代1例であった。届出は、6月、8月、11月、12月を除く各月に1例ずつの届出であった。診断方法は、全例が分離同定による病原体の検出で、耐性はMICの測定が7例、PCRによる耐性遺伝子の検出が1例であった。分離株は、*Enterococcus faecalis* 4例、*E. faecium* 2例、*E. casseliflavus* 1例、菌種未同定が1例であった。推定感染地域はいずれも国内であった。

15) 風しん

風しんは、男475例、女133例の計608例の届出があった。年齢階級別では、男女とも1歳未満から60歳代に分布し、男で30歳代の173例が最も多く、ついで、20歳代の119例、40歳代の114例の順であった。女は、20歳代の70例が最も多く、次いで30歳代の16例、10歳代の15例の順であった。病型別では、検査診断例494例、臨床診断例114例で、予防接種歴は有りが37例、なしが188例、不明383例であった。推定感染地域は国内が565例、不明43例であった。

16) 麻しん

麻しんは、男19例、女8例の計27例の届出があった。年齢階級別では、成人で、男が30歳代と40歳代で各4例、20歳代と50歳代各3例、60歳代1例、女では、20歳代3例、40歳代1例であった。20歳未満では、1-4歳6例、15-19歳と1歳未満

が各1例であった。病型別では、検査診断例13例、臨床診断例4例、修飾麻しん10例であった。修飾麻しんの検査方法は、すべて血清抗体の検出で、病原体分離による病原体の検出による届出はなかった。予防接種の接種歴は、接種歴有り6例、なし4例、不明17例で、推定感染地域は全て国内であった。

(4) 獣医師が届出を行う感染症

獣医師が届出を行うエボラ出血熱(サル)、マールブルグ病(サル)、ペスト(プレーリードッグ)、重症急性呼吸器症候群(イタチアナグマ・タヌキ・ハクビシン)、結核(サル)、鳥インフルエンザH5N1(鳥類)、細菌性赤痢(サル)、ウエストナイル熱(鳥類)、エキノコックス症(イヌ)及び新型インフルエンザ等感染症(鳥類)の10疾患の届出はなかった。

2. 定点把握対象疾患の動向

五類感染症定点把握対象疾患の週単位報告の週別報告数、定点当たり報告数を表3-1, 2に示した。また、月単位報告の月別報告数、定点当たり報告数を表4に、性年齢階級別報告数を表5に示した。

(1) 内科・小児科定点把握対象疾患の動向

1) インフルエンザ

2013年のインフルエンザは、前年末に引き続き年当初から増加が始まり第4週に最大値を記録し、その後減少に転じた。前年と比べ小規模な流行となった。また、年末冬期の流行は、12月に入り観察され、第49週に定点当たり1.00を超えた。

(2) 小児科定点把握対象疾患の動向

1) RSウイルス感染症

2013年第1週～52週の累積報告患者数は3,846例、定点当たり報告患者総数は24.81で、前年を上回った。年始冬期の流行は、第2週(1/7～13)をピークに下降したが、7月以降前年までの同時期より報告数の多い状況が観察された。定点当たり報告数の最大値は、前年より1週遅い第41週(10/7～13)の定点当たり1.44で、報告数の多い状況が12月まで続いた。

2) 咽頭結膜熱

2013年第1週～52週の累積報告患者数は4,174例、定点当たり報告患者総数は26.93で、前年を上回った。4月以降漸増傾向を示し、報告数の多い状況が9月まで続いた。定点当たり報告数の最大値は、第27週(7/1～7)の定点当たり1.16で以後減少傾向を示したが10月以降再び増加した。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2013年第1週～52週の累積報告患者総数は15,855例、定点当たり報告患者総数102.29で、前年と同水準の報告があった。前年までと同様に報告数の多い状況が年当初から夏期

まで続き、定点当たり報告数の最大値は第22週(5/27～6/2)の定点当たり3.50であった。以後報告数は減少に転じたが、8月以降再び増加し漸増傾向は年末まで続いた。

4) 感染性胃腸炎

2013年第1週～52週の累積患者報告数は69,341例、定点当たり報告患者総数は447.36で、前年と同水準の報告があった。3月以降夏期まで減少傾向を示したが、8月以降増加に転じた。年末冬期の流行は10月から観察され、定点当たり報告数の最大値は、第51週(12/16～22)の定点当たり34.72で過去5年間の最大値を上回った。

5) 水痘

2013年第1週～第52週の累積報告患者数は8,596例、定点当たり報告患者総数55.46で、前年を下回った。年当初から夏期まで前年の同時期と比べやや低い状況で推移し、9月以降の増加は前年の報告数とほぼ同水準で推移し、定点当たり報告数の最大値は第50週(12/9～15)の定点当たり2.12であった。

6) 手足口病

2013年第1週～52週の累積報告患者数は22,102例、定点当たり報告患者総数142.59で、前年を大きく上回った。前年までと同様に夏期に一峰性の流行を示し、定点当たり報告数の最大値は第29週(7/15～21)の18.69で過去5年間の最大値を大きく超えた。

7) 伝染性紅斑

2013年第1週～52週の累積報告患者数は514例、定点当たり報告患者総数3.32で、前年を下回った。定点当たり報告数の最大値は、第27週(7/1～7)の定点当たり0.17であったが、年間を通して際立った報告数の増加は観察されなかった。

8) 突発性発しん

2013年第1週～52週の累積報告患者数は5,122例、定点当たり報告患者総数33.05は前年を下回った。年間を通して際立った報告数の増加は認められず、定点当たり報告数の最大値は、第36週(9/2～8)の定点当たり0.91であった。

9) 百日咳

2013年第1週～52週の累積報告患者数は65例、定点当たり報告患者総数0.42前年を下回った。年間を通して際立った報告数の増加は認められず、定点当たり報告数の最大値は、第28週(7/8～14)、第47週(11/18～24)、第48週(11/25～12/1)の定点当たり0.03であった。

10) ヘルパンギーナ

2013年第1週～52週の累積報告患者数は4,012例、定点当たり報告患者総数25.88は前年を大きく下回った。夏期をピークとする一峰性を占めし、定点当たり報告数の最大値は

表3-1 定点報告対象疾患の推移・患者数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	咽頭炎	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	年・週	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(感染性胃腸炎(ロタウイルス))	インフルエンザ(入院)
13-1	12/31	1,476	61	17	55	534	244	10	1	24	-	1	21	13-1	-	4	-	-	9	1	...	2	
13-2	01/07	4,858	81	59	181	1,566	242	11	9	74	1	1	45	13-2	1	17	-	1	9	-	...	18	
13-3	01/14	7,807	61	24	214	1,161	160	26	5	79	1	3	31	13-3	2	15	-	1	7	1	...	15	
13-4	01/21	12,195	51	41	323	1,372	170	24	8	59	1	2	18	13-4	6	9	-	-	13	3	...	35	
13-5	01/28	10,266	51	44	310	1,344	140	15	5	77	1	3	40	13-5	1	18	-	-	14	-	...	24	
13-6	02/04	5,974	35	54	355	1,405	169	17	9	77	1	-	29	13-6	-	24	-	-	10	-	...	20	
13-7	02/11	2,744	33	29	311	1,290	171	15	4	73	-	1	31	13-7	2	8	1	-	15	-	...	12	
13-8	02/18	1,982	22	40	438	1,533	181	13	4	73	-	-	20	13-8	-	13	-	-	10	3	...	5	
13-9	02/25	1,462	36	52	427	1,897	160	16	6	75	1	-	37	13-9	3	16	-	-	9	3	...	10	
13-10	03/04	1,152	19	34	451	2,248	174	13	7	90	-	3	40	13-10	2	13	-	-	17	-	...	7	
13-11	03/11	842	14	39	451	2,208	152	15	7	88	1	1	22	13-11	1	9	-	-	14	1	...	4	
13-12	03/18	709	19	45	409	1,920	172	18	6	97	1	1	45	13-12	2	21	-	-	14	2	...	2	
13-13	03/25	408	17	30	292	1,586	167	15	3	92	1	4	49	13-13	2	25	-	-	11	-	...	0	
13-14	04/01	289	11	47	248	1,311	218	18	10	111	1	8	35	13-14	3	16	-	-	8	1	...	1	
13-15	04/08	165	20	53	309	1,210	192	32	18	99	2	8	41	13-15	-	22	-	-	14	1	...	2	
13-16	04/15	240	23	56	457	1,328	142	34	19	134	-	6	44	13-16	-	22	-	1	10	1	...	2	
13-17	04/22	303	24	60	439	1,527	184	57	19	109	2	7	34	13-17	1	16	-	-	10	2	...	1	
13-18	04/29	295	6	42	295	997	129	42	7	88	3	7	27	13-18	1	17	-	-	12	-	...	0	
13-19	05/06	272	6	82	398	1,332	219	52	15	104	-	8	53	13-19	5	18	-	-	9	1	...	1	
13-20	05/13	324	11	75	508	1,572	211	63	14	116	1	15	45	13-20	1	20	-	-	9	-	...	1	
13-21	05/20	168	11	128	527	1,294	257	83	8	119	1	12	53	13-21	3	25	-	1	10	2	...	0	
13-22	05/27	99	14	139	549	1,054	237	155	20	133	2	17	57	13-22	2	38	-	-	8	-	...	1	
13-23	06/03	40	10	131	527	1,079	213	176	13	112	2	22	76	13-23	3	40	-	2	20	1	...	0	
13-24	06/10	22	6	160	499	1,043	250	214	19	114	1	39	70	13-24	3	32	-	-	11	-	...	1	
13-25	06/17	15	13	144	400	921	177	413	19	129	-	53	54	13-25	1	29	-	-	10	1	...	0	
13-26	06/24	7	17	142	391	810	213	790	12	116	2	130	69	13-26	-	20	-	2	12	1	...	0	
13-27	07/01	1	25	184	371	792	186	1,229	27	125	-	233	70	13-27	3	29	-	1	14	-	...	0	
13-28	07/08	1	20	152	320	660	203	2,127	20	114	4	420	65	13-28	2	29	-	1	11	-	...	0	
13-29	07/15	1	17	116	203	588	140	2,972	10	113	1	502	65	13-29	2	27	-	-	6	-	...	0	
13-30	07/22	-	24	119	198	529	150	2,929	8	116	-	594	40	13-30	-	23	-	2	12	1	...	0	
13-31	07/29	-	53	152	179	565	119	2,710	3	122	1	471	42	13-31	2	24	1	3	6	-	...	0	
13-32	08/05	-	68	117	129	505	83	2,121	7	99	2	397	34	13-32	-	28	-	4	1	3	...	0	
13-33	08/12	-	45	91	67	230	63	925	2	54	2	156	34	13-33	-	16	-	3	8	-	...	0	
13-34	08/19	-	41	88	105	482	75	835	1	126	1	208	39	13-34	1	28	-	2	6	2	...	0	
13-35	08/26	1	72	102	114	462	30	737	8	116	2	176	33	13-35	-	26	-	3	7	-	...	0	
13-36	09/02	-	85	100	123	582	69	595	8	143	-	102	41	13-36	1	25	-	2	6	1	...	0	
13-37	09/09	1	121	116	164	497	61	558	12	115	1	102	33	13-37	-	39	-	2	3	1	...	0	
13-38	09/16	-	99	66	152	451	63	420	7	111	-	85	37	13-38	-	21	-	3	5	-	...	0	
13-39	09/23	2	101	65	149	435	65	224	5	72	2	51	43	13-39	-	26	-	-	3	1	...	0	
13-40	09/30	4	133	51	164	474	60	252	8	115	2	31	44	13-40	-	26	-	1	4	1	...	0	
13-41	10/07	-	225	53	204	570	84	263	16	116	3	32	40	13-41	-	33	-	1	6	-	...	0	
13-42	10/14	-	199	46	142	460	82	174	5	90	-	28	37	13-42	2	22	-	1	5	-	...	0	
13-43	10/21	6	217	45	200	582	72	174	12	112	-	19	56	13-43	4	11	-	2	3	1	...	0	
13-44	10/28	11	210	47	211	679	89	128	15	94	1	17	45	13-44	-	26	-	2	5	-	...	0	
13-45	11/04	3	198	56	246	778	127	106	3	98	-	16	43	13-45	1	18	-	-	5	-	...	1	
13-46	11/11	28	214	64	259	1,060	148	67	7	98	1	6	43	13-46	1	18	-	-	7	1	...	0	
13-47	11/18	78	202	80	246	1,696	203	63	6	95	4	5	45	13-47	-	12	-	-	7	-	...	2	
13-48	11/25	123	181	78	422	3,030	276	55	18	116	4	2	45	13-48	-	23	-	-	3	-	...	2	
13-49	12/02	276	172	81	453	4,065	244	42	6	87	3	1	55	13-49	-	18	-	-	6	-	...	1	
13-50	12/09	319	192	123	453	4,923	339	19	14	81	1	2	46	13-50	5	18	-	1	5	2	...	0	
13-51	12/16	556	140	110	441	5,416	316	31	12	70	3	1	40	13-51	1	23	-	1	1	-	...	2	
13-52	12/23	638	120	105	376	3,288	305	9	7	62	1	3	50	13-52	-	28	-	1	3	-	...	0	
2013年計		56,163	3,846	4,174	15,855	69,341	8,596	22,102	514	5,122	65	4,012	2,251	2013年	70	1,124	2	45	443	39	...	165	
2012年計		101,364	3,236	2,443	16,439	68,914	10,521	4,181	607	5,146	132	7,618	2,653	2012年	52	984	9	21	1,153	54	...	212	
2013年/2012年比		0.6	1.2	1.7	1.0	1.0	0.8	5.3	0.8	1.0	0.5	0.5	0.8		1.3	1.1	0.2	2.1	0.4	0.7	...	0.8	

※表中の数値は、小数第3位で四捨五入
 ※(入院)インフルエンザについては、2011年第36週から報告対象

第30週(7/22~28)の定点当たり3.74で過去5年間では2009年に次ぐ低い水準であった。

1) 流行性耳下腺炎

2013年第1週~52週の累積報告患者数は2,251例、定点当たり報告患者総数14.52は前年を下回った。年間を通して際立った報告数の増加は認められなかったが、夏期まで漸増傾向を示し、定点当たり報告数の最大値は、第23週(6/3~9)の定点当たり0.48であった。

(3) 眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

2013年第1週~52週の累積報告患者数は70例、定点当たり報告患者総数1.75は前年を上回った。年間を通して報告があり報告数の最大値は第4週(1/21~27)の定点当たり0.14であった。報告患者総数1.75は前年を上回った。

2) 流行性角結膜炎

2013年第1週~52週の累積報告患者数は1,124例、定点当たり報告患者総数28.10は前年を上回った。年間を通して報告があり、定点当たり報告数の最大値は、第23週(6/3~9)と第37週(9/9~15)の定点当たり0.95であった。

表3-2 定点報告対象疾患の推移・定点当たり報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結核熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	年・週	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	インフルエンザ(入院)
13-1	12/31	7.20	0.49	0.14	0.44	4.27	1.95	0.08	0.01	0.19	-	0.01	0.17	12-1	-	0.12	-	-	1.00	0.11	...	0.22
13-2	01/07	20.41	0.52	0.38	1.17	10.10	1.56	0.07	0.06	0.48	0.01	0.01	0.29	12-2	0.03	0.44	-	0.11	1.00	-	...	2.00
13-3	01/14	32.13	0.39	0.15	1.37	7.44	1.03	0.17	0.03	0.51	0.01	0.02	0.20	12-3	0.05	0.36	-	0.11	0.78	0.11	...	1.67
13-4	01/21	49.37	0.32	0.26	2.04	8.68	1.08	0.15	0.05	0.37	0.01	0.01	0.11	12-4	0.14	0.21	-	-	1.44	0.33	...	3.89
13-5	01/28	41.56	0.32	0.28	1.96	8.51	0.89	0.09	0.03	0.49	0.01	0.02	0.25	12-5	0.02	0.43	-	-	1.56	-	...	2.67
13-6	02/04	24.28	0.23	0.35	2.29	9.06	1.09	0.11	0.06	0.50	0.01	-	0.19	12-6	-	0.57	-	-	1.11	-	...	2.22
13-7	02/11	11.11	0.21	0.18	1.97	8.16	1.08	0.09	0.03	0.46	-	0.01	0.20	12-7	0.05	0.19	0.11	-	1.67	-	...	1.33
13-8	02/18	7.99	0.14	0.25	2.77	9.70	1.15	0.08	0.03	0.46	-	-	0.13	12-8	-	0.33	-	-	1.11	0.33	...	0.56
13-9	02/25	5.90	0.23	0.33	2.70	12.01	1.01	0.10	0.04	0.47	0.01	-	0.23	12-9	0.07	0.39	-	-	1.00	0.33	...	1.11
13-10	03/04	4.70	0.12	0.22	2.87	14.32	1.11	0.08	0.04	0.57	-	0.02	0.25	12-10	0.05	0.31	-	-	1.89	-	...	0.78
13-11	03/11	3.44	0.09	0.25	2.87	14.06	0.97	0.10	0.04	0.56	0.01	0.01	0.14	12-11	0.03	0.23	-	-	1.56	0.11	...	0.44
13-12	03/18	2.89	0.12	0.29	2.61	12.23	1.10	0.11	0.04	0.62	0.01	0.01	0.29	12-12	0.05	0.53	-	-	1.56	0.22	...	0.22
13-13	03/25	1.71	0.11	0.20	1.92	10.43	1.10	0.10	0.02	0.61	0.01	0.03	0.32	12-13	0.05	0.61	-	-	1.22	-	...	-
13-14	04/01	1.17	0.07	0.30	1.56	8.25	1.37	0.11	0.06	0.70	0.01	0.05	0.22	12-14	0.07	0.39	-	-	0.80	0.10	...	0.10
13-15	04/08	0.67	0.13	0.33	1.94	7.61	1.21	0.20	0.11	0.62	0.01	0.05	0.26	12-15	-	0.52	-	-	1.40	0.10	...	0.20
13-16	04/15	0.97	0.14	0.35	2.86	8.30	0.89	0.21	0.12	0.84	-	0.04	0.28	12-16	-	0.52	-	0.10	1.00	0.10	...	0.20
13-17	04/22	1.24	0.15	0.38	2.81	9.79	1.18	0.37	0.12	0.70	0.01	0.04	0.22	12-17	0.03	0.41	-	0.10	1.00	0.20	...	0.10
13-18	04/29	1.25	0.04	0.28	1.94	6.56	0.85	0.28	0.05	0.58	0.02	0.05	0.18	12-18	0.03	0.44	-	-	1.20	-	...	-
13-19	05/06	1.11	0.04	0.52	2.52	8.43	1.39	0.33	0.09	0.66	-	0.05	0.34	12-19	0.12	0.43	-	-	0.90	0.10	...	0.10
13-20	05/13	1.31	0.07	0.47	3.19	9.89	1.33	0.40	0.09	0.73	0.01	0.09	0.28	12-20	0.02	0.49	-	-	0.90	-	...	0.10
13-21	05/20	0.68	0.07	0.81	3.34	8.19	1.63	0.53	0.05	0.75	0.01	0.08	0.34	12-21	0.07	0.60	-	0.10	1.00	0.20	...	-
13-22	05/27	0.40	0.09	0.89	3.50	6.71	1.51	0.99	0.13	0.85	0.01	0.11	0.36	12-22	0.05	0.90	-	-	0.80	-	...	0.10
13-23	06/03	0.16	0.06	0.83	3.34	6.83	1.35	1.11	0.08	0.71	0.01	0.14	0.48	12-23	0.07	0.95	-	0.20	2.00	0.10	...	-
13-24	06/10	0.09	0.04	1.01	3.14	6.56	1.57	1.35	0.12	0.72	0.01	0.25	0.44	12-24	0.07	0.76	-	-	1.10	-	...	0.10
13-25	06/17	0.06	0.08	0.91	2.53	5.83	1.12	2.61	0.12	0.82	-	0.34	0.34	12-25	0.02	0.69	-	-	1.00	0.10	...	-
13-26	06/24	0.03	0.11	0.90	2.49	5.16	1.36	5.03	0.08	0.74	0.01	0.83	0.44	12-26	-	0.48	-	0.20	1.20	0.10	...	-
13-27	07/01	-	0.16	1.16	2.35	5.01	1.18	7.78	0.17	0.79	-	1.47	0.44	12-27	0.07	0.69	-	0.10	1.40	-	...	-
13-28	07/08	-	0.13	0.99	2.09	4.31	1.33	13.90	0.13	0.75	0.03	2.75	0.42	12-28	0.05	0.71	-	0.10	1.10	-	...	-
13-29	07/15	-	0.11	0.73	1.28	3.70	0.88	18.69	0.06	0.71	0.01	3.16	0.41	12-29	0.05	0.66	-	-	0.60	-	...	-
13-30	07/22	-	0.15	0.75	1.25	3.33	0.94	18.42	0.05	0.73	-	3.74	0.25	12-30	-	0.55	-	0.20	1.20	0.10	...	-
13-31	07/29	-	0.34	0.96	1.13	3.58	0.75	17.15	0.02	0.77	0.01	2.98	0.27	12-31	0.05	0.59	0.10	0.30	0.60	-	...	-
13-32	08/05	-	0.46	0.79	0.87	3.39	0.56	14.23	0.05	0.66	0.01	2.66	0.23	12-32	-	0.74	-	0.40	1.10	0.30	...	-
13-33	08/12	-	0.32	0.65	0.48	1.64	0.45	6.61	0.01	0.39	0.01	1.11	0.24	12-33	-	0.43	-	0.30	0.80	-	...	-
13-34	08/19	-	0.26	0.57	0.68	3.11	0.48	5.39	0.01	0.81	0.01	1.34	0.25	12-34	0.03	0.70	-	0.20	0.60	0.20	...	-
13-35	08/26	-	0.46	0.66	0.74	2.98	0.19	4.75	0.05	0.75	0.01	1.14	0.21	12-35	-	0.63	-	0.30	0.70	-	...	-
13-36	09/02	-	0.54	0.63	0.78	3.68	0.44	3.77	0.05	0.91	-	0.65	0.26	12-36	0.02	0.60	-	0.20	0.60	0.10	...	-
13-37	09/09	-	0.79	0.76	1.07	3.25	0.40	3.65	0.08	0.75	0.01	0.67	0.22	12-37	-	0.95	-	0.20	0.30	0.10	...	-
13-38	09/16	-	0.64	0.43	0.99	2.93	0.41	2.73	0.05	0.72	-	0.55	0.24	12-38	-	0.53	-	0.30	0.50	-	...	-
13-39	09/23	0.01	0.64	0.41	0.94	2.75	0.41	1.42	0.03	0.46	0.01	0.32	0.27	12-39	-	0.63	-	-	0.30	0.10	...	-
13-40	09/30	0.02	0.85	0.32	1.04	3.02	0.38	1.61	0.05	0.73	0.01	0.20	0.28	12-40	-	0.62	-	0.10	0.40	0.10	...	-
13-41	10/07	-	1.44	0.34	1.31	3.65	0.54	1.69	0.10	0.74	0.02	0.21	0.26	12-41	-	0.79	-	0.10	0.60	-	...	-
13-42	10/14	-	1.26	0.29	0.90	2.91	0.52	1.10	0.03	0.57	-	0.18	0.23	12-42	0.05	0.54	-	0.10	0.50	-	...	-
13-43	10/21	0.02	1.37	0.28	1.27	3.68	0.46	1.10	0.08	0.71	-	0.12	0.35	12-43	0.10	0.26	-	0.20	0.30	0.10	...	-
13-44	10/28	0.05	1.35	0.30	1.36	4.38	0.57	0.83	0.10	0.61	0.01	0.11	0.29	12-44	-	0.63	-	0.20	0.50	-	...	-
13-45	11/04	0.01	1.26	0.36	1.57	4.96	0.81	0.68	0.02	0.62	-	0.10	0.27	12-45	0.03	0.45	-	-	0.50	-	...	0.10
13-46	11/11	0.11	1.36	0.41	1.65	6.75	0.94	0.43	0.04	0.62	0.01	0.04	0.27	12-46	0.02	0.44	-	-	0.70	0.10	...	0.10
13-47	11/18	0.32	1.28	0.51	1.56	10.73	1.28	0.40	0.04	0.60	0.03	0.03	0.28	12-47	-	0.29	-	-	0.70	-	...	0.20
13-48	11/25	0.50	1.16	0.50	2.71	19.42	1.77	0.35	0.12	0.74	0.03	0.01	0.29	12-48	-	0.55	-	-	0.30	-	...	0.20
13-49	12/02	1.10	1.08	0.51	2.85	25.57	1.53	0.26	0.04	0.55	0.02	0.01	0.35	12-49	-	0.43	-	-	0.60	-	...	0.10
13-50	12/09	1.27	1.20	0.77	2.83	30.77	2.12	0.12	0.09	0.51	0.01	0.01	0.29	12-50	0.13	0.45	-	0.10	0.50	0.20	...	-
13-51	12/16	2.28	0.90	0.71	2.83	34.72	2.03	0.20	0.08	0.45	0.02	0.01	0.26	12-51	0.02	0.55	-	0.10	0.10	-	...	0.20
13-52	12/23	2.61	0.77	0.68	2.43	21.21	1.97	0.06	0.05	0.40	0.01	0.02	0.32	12-52	-	0.67	-	0.10	0.30	-	...	-
2013年 計		230.18	24.81	26.93	102.29	447.36	55.46	142.59	3.32	33.05	0.42	25.88	14.52	2013年	1.75	28.10	0.22	5.00	49.22	4.33	1.00	18.33
2012年 計		418.86	20.88	15.76	106.06	444.61	67.88	26.97	3.92	33.20	0.85	49.15	17.12	2012年	1.27	24.00	1.00	2.33	128.11	6.00	...	23.56
2013年/2012年比		0.5	1.2	1.7	1.0	1.0	0.8	5.3	0.8	1.0	0.5	0.5	0.8		1.4	1.2	0.2	2.1	0.4	0.7	...	0.8

※表中の数値は、小数第3位で四捨五入

※(入院)インフルエンザについては、2011年第36週から報告が始まった。

(4) 基幹定点把握対象疾患の動向

1) 細菌性髄膜炎

2013年第1週～52週の累積報告患者数は2例、定点当たり報告患者総数0.22は前年を下回った。報告は、第7週(2/11～17)と第31週(7/29～8/4)の各1例であった。

2) 無菌性髄膜炎

2013年第1週～52週の累積報告患者数は45例、定点当たり報告患者総数5.00で、前年を上回った。年間を通して報告があったが、7月から9月までに多く、定点当たり報告数の最大値は第32週(8/5～11)の定点当たり0.40であった。

3) マイコプラズマ肺炎

2013年の第1週～52週の累積報告患者数は443例、定点当たり報告患者総数49.22は前年を下回った。年間を通して報

告があり、際立った報告数の増加は認められなかった。定点当たり報告数の最大値は、第23週(6/3～9)の定点当たり2.00であった。

4) クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2013年第1週～52週の累積報告患者数は39例、定点当たり報告患者総数4.33は前年を下回った。年間を通して報告は散発的で、定点当たり報告数の最大値は、第4週、8週、9週の定点当たり0.33であった。

5) 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

2013年第42週から基幹定点報告対象に加わった感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、9例の報告があった。年齢階級別では、全例が10歳未満で、1～4歳が多い。

表4 定点把握対象疾患の推移(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

月別	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症		薬剤耐性アシネトバクター感染症	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
1月	99	1.80	46	0.84	25	0.45	43	0.78	11	1.22	-	-	-	-	-	-
2月	101	1.84	42	0.76	21	0.38	50	0.91	7	0.78	1	0.11	1	0.11	-	-
3月	124	2.25	38	0.69	23	0.42	47	0.85	10	1.11	-	-	1	0.11	-	-
4月	143	2.47	34	0.59	40	0.69	43	0.74	7	0.70	2	0.20	-	-	-	-
5月	166	3.02	49	0.89	37	0.67	60	1.09	11	1.10	-	-	-	-	-	-
6月	138	2.42	53	0.93	33	0.58	61	1.07	9	0.90	-	-	-	-	-	-
7月	159	2.79	41	0.72	35	0.61	61	1.07	12	1.20	2	0.20	-	-	-	-
8月	154	2.70	53	0.93	30	0.53	54	0.95	14	1.40	-	-	-	-	-	-
9月	146	2.56	44	0.77	34	0.60	46	0.81	11	1.10	-	-	-	-	-	-
10月	142	2.49	46	0.81	26	0.46	49	0.86	7	0.70	2	0.20	-	-	-	-
11月	132	2.32	48	0.84	23	0.40	49	0.86	11	1.10	-	-	1	0.10	-	-
12月	116	2.04	42	0.74	27	0.47	44	0.77	12	1.20	3	0.30	-	-	-	-
合計	1,620	28.72	536	9.50	354	6.28	607	10.76	122	12.58	10	1.03	3	0.31	-	-

(-:0)

6) インフルエンザ(入院)

2013年第1週～52週の累積報告患者数は165例、定点当たり報告患者総数18.33は前年を下回った。定点当たり報告数の最大値は内科・小児科定点報告インフルエンザと同時期の第4週(1/21～27)の定点当たり3.89であった。

7) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症

2013年1月から12月の累積報告患者数は122例、定点当たり報告患者総数12.58は前年を下回った。年間を通して報告はあったが、12月をのぞき過去5年間の同時期と比べ最も低い水準で推移した。定点当たり報告数の最大値は8月の定点当たり1.40であった。年齢階級別では、男女とも70歳以上が多い。

8) ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)感染症

2013年1月～12月の累積報告患者数は、10例、定点当たり報告患者総数1.03は前年を下回った。報告は2月1例、4月、7月、10月に各2例、12月に3例であった。

9) 薬剤耐性アシネトバクター(DRAB)感染症

2013年の累積報告患者数は、3例で、定点当たり報告総数0.31は前年を下回った。報告は、2月と3月に男各1例、11月に女1例であった。

10) 薬剤耐性緑膿菌(DRPA)感染症

2011年2月から報告対象となったが、2013年は、年間を通

して報告はなかった。

(5) 性感染症定点把握対象疾患の動向

1) 性器クラミジア感染症

2013年1月～12月の累積報告患者数は、男829例、女791例の計1,620例で、定点当たり報告患者総数28.72は前年を上回った。定点当たり報告数の最大値は5月の定点当たり3.02と過去5年間で最も高い値を示した。年齢階級別では、男女とも20～24歳が最も多い。

2) 性器ヘルペスウイルス感染症

2013年1月～12月の累積報告患者数は、男176例、女360例の計536例、定点当たり報告患者総数9.50は前年を上回った。定点当たり報告数の最大値は6月と8月の定点当たり0.93で過去5年間の同時期と比べ最も高い値を示した。年齢階級別では、男女とも30～34歳が最も多い。

3) 尖圭コンジローマ

2013年1月～12月の累積報告患者数は男137例、女217例の計354例、定点当たり報告患者総数6.28は前年を上回った。定点当たり報告数の最大値は4月の定点当たり0.69で、過去5年間の最大値を記録した。年齢階級別では、男40～44歳、女20～24歳が最も多い。

4) 淋菌感染症

2013年1月～12月の累積報告患者数は男527例、女80例の

表5 性年齢階級別報告数(基幹定点・性感染症定点)

年齢	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症		薬剤耐性アシネトバクター感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-	-	-
1-4	-	-	-	-	-	-	-	-	5	2	-	-	-	-	-	-
5-9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
10-14	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15-19	48	144	2	12	6	24	28	25	2	-	-	-	-	-	-	-
20-24	185	226	17	51	11	45	111	24	-	-	-	-	-	-	-	-
25-29	152	182	30	52	21	38	103	6	1	-	-	-	-	-	-	-
30-34	151	102	31	63	21	30	93	9	1	-	-	-	-	-	-	-
35-39	97	54	24	38	18	31	73	7	-	-	-	-	1	-	-	-
40-44	77	38	13	42	26	30	46	6	4	2	-	-	-	-	-	-
45-49	50	22	19	22	17	10	35	3	1	-	-	-	-	-	-	-
50-54	31	11	10	18	7	3	22	-	1	1	-	-	-	-	-	-
55-59	22	3	13	14	5	2	12	-	5	2	-	-	-	-	-	-
60-64	9	2	12	16	4	4	3	-	5	-	-	-	1	-	-	-
65-69	6	2	1	16	-	-	1	-	6	3	-	-	-	-	-	-
70～	-	-	4	16	1	-	-	-	45	29	5	4	-	-	1	-
合計	829	791	176	360	137	217	527	80	79	43	6	4	2	1	-	-
男女比	1.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.6	1.0	0.2	1.0	0.5	1.0	0.7	1.0	0.5	0.0	0.0

計607例、定点当たり報告患者総数10.76は前年を上回った。定点当たり報告数の最大値は5月の定点当たり1.09であった。年齢階級別では、男20～24歳、女15～19歳が最も多い。

(6)感染症法第14条1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

2013年埼玉県における摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）と発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症及び五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。）の二つの症候群の届出はなかった。

まとめ

2013年の感染症発生動向調査に基づく患者届出について、各疾患の動向をまとめた。二類感染症は、結核1,313例の届出があり、前年に引き続き減少した。

三類感染症は、細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症191例、腸チフス5例、パラチフス1例の届出があった。そのうち、腸管出血性大腸菌感染症と腸チフスは前年より増加した。

四類感染症は、E型肝炎、A型肝炎、デング熱、マラリア、類鼻疽、レジオネラ症の6疾患の届出があった。そのうち、E型肝炎、A型肝炎、デング熱、類鼻疽は前年より増加した。

五類感染症の全数把握対象疾患は、アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎、急性脳炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、ジアルジア症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、先天性風しん症候群、梅毒、破傷風、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、風しん、麻しんの計16疾患の届出があった。そのうち急性脳炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、後天性免疫不全症候群、先天性風しん症候群、梅毒、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、風しんは前年より増加した。

週単位報告対象疾患では、インフルエンザは、前年末に引き続き年当初から増加が始まり第4週に最大値を記録し、その後減少に転じた。前年と比べ小規模な流行となった。また、年末冬期の流行は12月に入り観察され、第49週に定点当たり1.00を超えた。

小児科定点報告対象疾患では、RSウイルス感染症は、前年末に引き続いた流行が年当初から下降しながら3月まで続いた。また、年後半の流行は、過去5年間で最も早い7月末に報告数の増加が始まり、以後10月まで増加傾向をしめし報告数の多い状況が年末まで続き、前年と比べ大きな流行年となった。

咽頭結膜熱は、夏期に報告数の増加が認められ第27週に最大値を記録したが、報告数の多い状況は9月まで続き大規模な流行年となった。また、11月に入り報告数の増加が認められ、報告数の多い状況は年末まで続いた。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、8月の報告数が最も少な

い前年までと同様の推移を示し、前年と同様に大規模な流行年となった。

感染性胃腸炎は、前年までと同様に8月まで緩やかな減少を続けた。年末冬期の流行は10月以降観察され、第51週に記録した最大値は過去5年間で最も高く、前年と同様に大規模な流行年となった。

水痘は、年間を通して前年までと同様の推移を示したが、5月から7月までの報告数は過去5年間で最も少なくやや小規模な流行年となったが、10月以降の報告数は前年と同水準で推移した。

手足口病は、6月以降報告数の増加が認められたが、夏期のピークは大きく過去5年間の報告数を上回り大規模な流行年となった。

伝染性紅斑は、年間を通して際立った流行は認められず、前年と比べ小規模な流行年となった。

突発性発しんは、前年までと同様に明らかな季節変動は認められなかった。年ごとの緩やかな減少傾向は認められ、前年と比べやや小規模な流行年となった。

百日咳は、年間を通して散発的な報告が続いたが、際立った流行は観察されず、前年と比べやや小規模な流行年となった。

ヘルパンギーナは、前年までと同様に夏期に一峰性の流行を認めた。流行のピークは過去5年間で2009年に次ぐ低い値で、前年と比べ小規模な流行年となった。

流行性耳下腺炎は、年間を通して際立った増加を認めなかった。前年と比べ小規模な流行年となった。

眼科定点報告対象疾患では、急性出血性結膜炎は、前年と同様に報告は年間を通してあったが際立った流行は認めなかった。定点当たり報告患者総数は1.75で前年より増加した。

流行性角結膜炎は、年間を通して前年同時期と比べ報告数の多い状況が続き前年より大規模な流行年となった。

基幹定点報告対象疾患では、細菌性髄膜炎は、2例の報告があり、前年の9例より大きく減少した。散発的な報告で、患者の集積は認められなかった。

無菌性髄膜炎は、45例の届出があり、前年の21例より増加した。年間を通して報告があったが7月から10月までの報告が前年を上回った。

マイコプラズマ肺炎は、443例の報告があり前年の1,153例より減少し、年間を通して漸減傾向をしめた。

クラミジア肺炎は、39例の報告があり、前年の54例より減少した。報告は年間を通して散発的で際立った流行は認められなかった。

感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、第42週(10/14～20)から報告対象に追加された。最初の報告は、第45週(11/4～10)で、年末までに9例の報告があった。

インフルエンザ(入院患者)は、2011年第36週(9/5～11)から報告対象に追加された。2013年は165例の報告があり前年の212例より減少した。年当初の増加は、内科・小児科定点把握のインフルエンザ報告数と同様の動きを示したが、

年末冬期の増加は観察されなかった。

月報報告対象疾患では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は、122例の報告があり、前年の182例よりやや減少した。際立った報告患者数の増加は認められず年間を通して全国より低い水準で推移した。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は、10例の報告があり、前年の41例より減少した。年間を通して報告は散発的で、際立った流行は認められなかった。

薬剤耐性アシネトバクター感染症は、2011年2月から報告対象疾患に追加されたが、2013年の埼玉県内の報告はなかった。

薬剤耐性緑膿菌感染症は、3例の報告があり前年の6例より減少した。

性感染症定点報告対象疾患では、性器クラミジア感染症は、1,620例の報告があり、前年の1,329例より増加した。報告数の最も多い年齢階級は男女とも20～24歳で、男女比は1:1と前年の1:1.1より狭まった。

性器ヘルペスウイルス感染症は、536例の報告があり、前年の475例より増加した。報告数の最も多い年齢階級は、男女とも30～34歳で、男で前年より若齢となった。男女比は1:2であった。

尖圭コンジローマは、354例の報告があり、前年の282例より増加した。報告数の最も多い年齢階級は、男が40～44歳、女が20～24歳で、男で前年より高齢となった。男女比は1:1.6であった。

淋菌感染症は、607例の報告があり、前年の519例より増加した。報告数の最も多い年齢階級は、男20～24歳、女15～19歳で、女の最頻年齢が過去5年間ではじめて20歳を下回った。男女比は1:0.2であった。